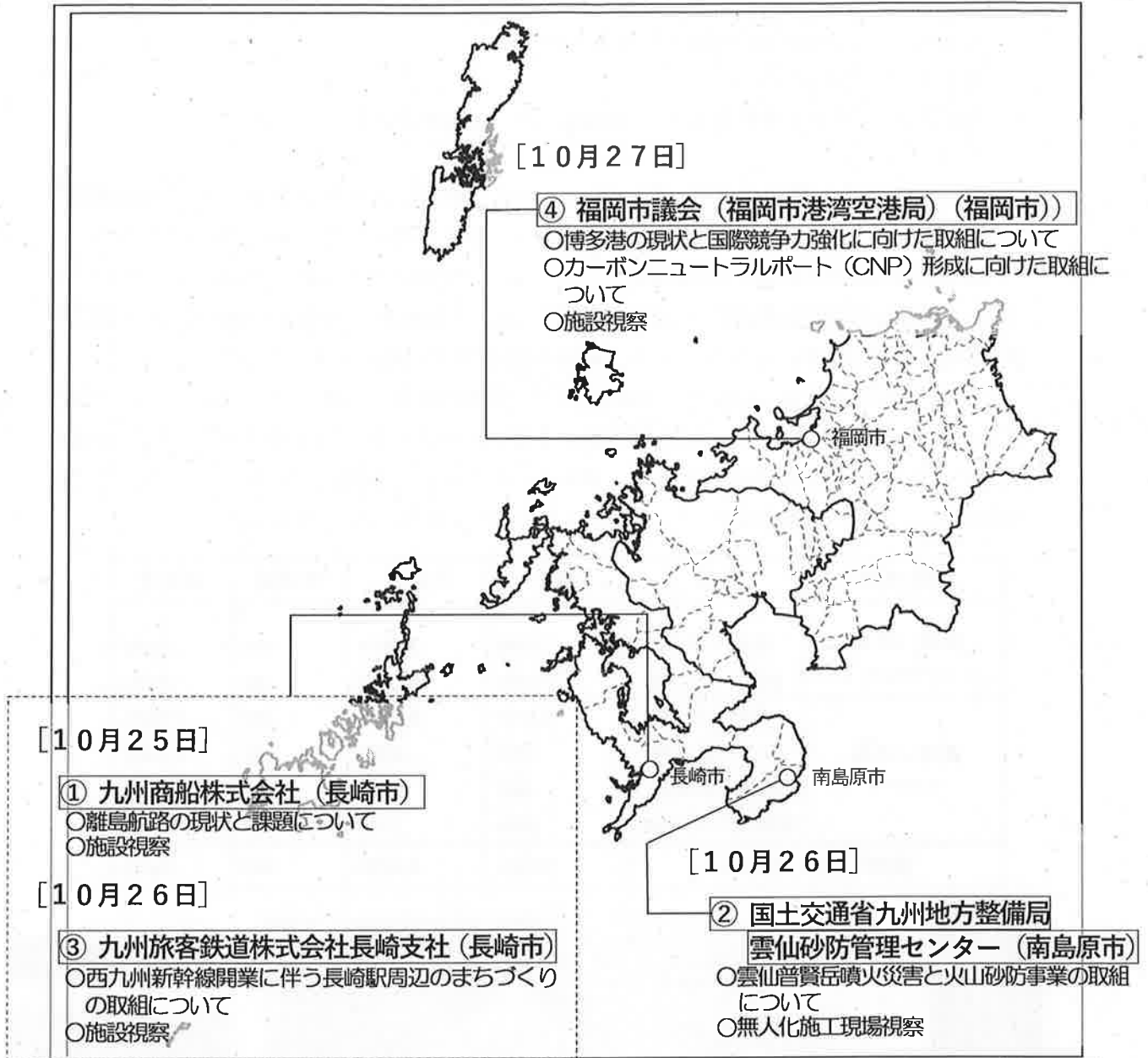


新潟県議会 建設公安委員会

県外行政視察概要

令和4年 10月25日(火)～10月27日(木)



県勢概要	新潟県	長崎県	福岡県
総面積	12,584 km ² (5)	4,131km ² (37)	4,987km ² (29)
人口(2020.10.1)	2,202千人 (15)	1,313千人(30)	5,139千人 (9)
財政規模(普通会計歳出 (2019年度決算額))	10,326億円 (14)	6,746億円(26)	16,167億円 (9)
県内総生産(2018年度)	91,222億円 (16)	46,766億円(31)	198,080億円 (8)
1人当たりの県民所得 (2018)	2,916千円(27)	2,629千円(42)	2,885千円 (30)
主な生産物	金属洋食器 90%	養殖ふぐ類 47%	たけのこ 28%
	石油ストーブ 74%	あじ類 39%	コークス 26%
	まいたけ 67%	びわ 25%	たんす 20%
県議会議員定数	53人	46人	87人

(参考文献)「データでみる県勢2022」 カッコ内は全国順位



■九州商船株式会社の概要について

設立	明治44年2月27日
代表者	代表取締役社長 美根 晴幸
所在地	長崎県長崎市元船町16番12号
資本金	2億6千万円
事業内容	旅客定期航路事業、港湾運送業、自動車運送業、旅行業

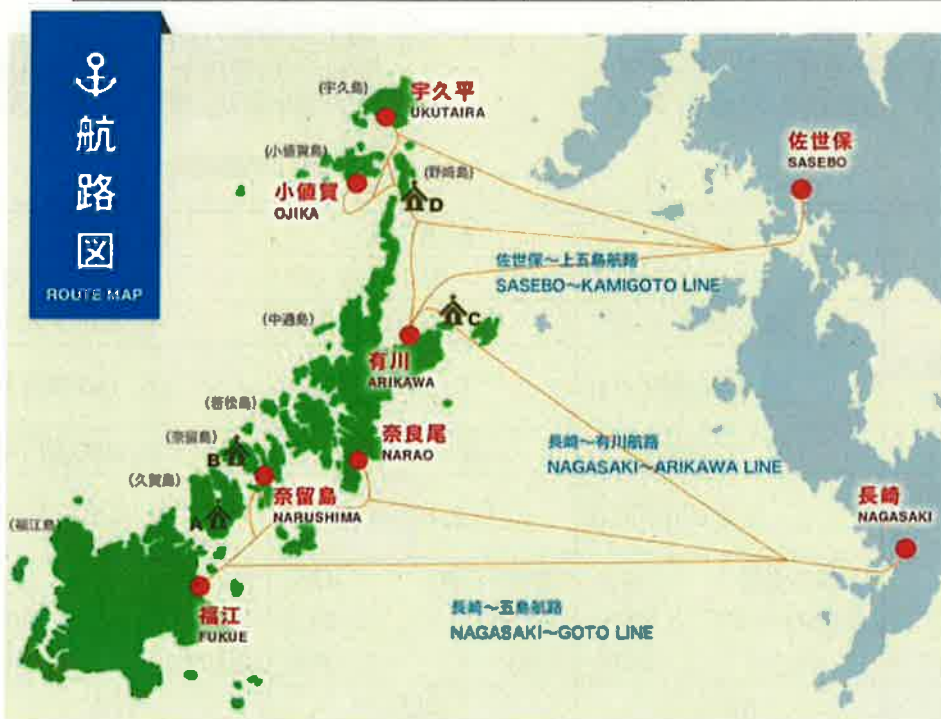


九州には多くの離島が点在していることから、離島住民の生活交通として離島航路が数多く運航されている。その中でも長崎県は、日本で離島の数が最も多い県である。

離島航路は離島住民の生活航路として、また、地域経済の振興・発展に欠くことができない重要な公共交通機関であるが、離島における過疎化、高齢化の進行による輸送需要の減少や燃料費等の増大等により、離島航路事業者は厳しい状況に置かれている。

九州商船株式会社は、長崎～五島航路など、複数の航路を運航しているが、コロナ禍や原油高に加え、これまでの人件費や物価の上昇、利用者の減少などを考慮し、航路の維持のため、佐世保～上五島航路を除き、本年10月1日から運賃改定を行っている。この運賃改定は、長崎～五島航路のフェリーにおいては、29年ぶりとなるもの。

航路・船種	区間	現行	改定後	改定額	改定率
長崎～五島 ジェットfoil	長崎～五島	7,000	7,600	600	8.6%
	福江～奈良尾	2,090	2,270	180	8.6%
長崎～五島 フェリー	長崎～五島	2,510	3,200	690	27.5%
	福江～奈良尾	720	920	200	27.8%
	福江～奈留島	490	580	90	18.4%
	奈良尾～奈留島	400	510	110	27.5%
長崎～有川 高速船		5,030	5,460	430	8.5%



高速船「シープリンセス」



カーフェリー「万葉」



(出典：同社ホームページ)



雲仙・普賢岳噴火

■雲仙砂防管理センターの概要

1990年11月に198年ぶりに噴火した雲仙・普賢岳の火山活動は1996年6月の終息宣言まで続き、この間に頻発した火砕流や土石流は死者・行方不明者44人を出すとともに、周辺地域の生活や経済活動へ長期にわたり甚大な被害を与えた。その後も度重なる火砕流などによる堆積物が降雨のたびに土石流となって流下することで、道路や鉄道が寸断され、やがて有明海に到達するまでに被害区域は拡大した。また、火砕流や土石流は、島原市、深江町地域を中心に被害を拡大させた。

このような事態を受け、1991年6月に災害対策基本法第63条に基づく警戒区域が、人家や商工業が密集する市街地において我が国で初めて設定され、これにより人の立ち入りが制限されることになった。その後は死者が発生するような災害は起こっていないが、道路やライフライン等の維持管理や土石流対策等の防災対策の着手が出来ない状況が長期間続いた。

このような中、1993年4月に「雲仙復興工事事務所」が新設され、直轄砂防事業による砂防堰堤・導流堤等の砂防施設整備、土石流等の監視体制の構築が進められた。

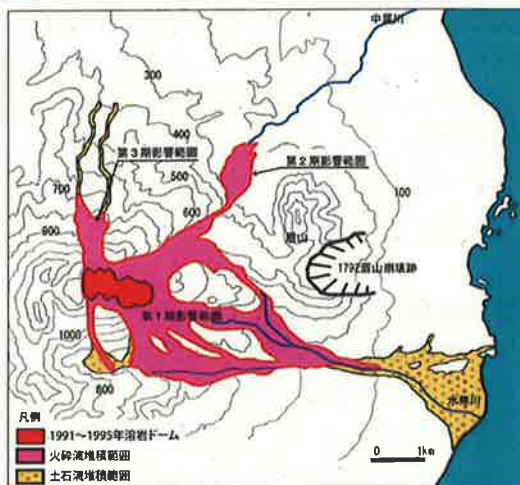
2021年3月末、導流堤や砂防堰堤の整備完了をもって28年間続いた直轄砂防事業は終了し、同年4月から長崎河川国道事務所に砂防課（雲仙砂防管理センター※）が新設され、水無川流域全域における砂防管理をスタートしている。

※ 旧雲仙復興工事事務所の施設を引き継いだもの

■噴火活動の経過

発生時期	活動内容
寛文3年(1663年)	古焼溶岩流が山腹から流出
寛政4年(1792年)	山腹から新焼溶岩流が流下し、眉山が山体崩壊を起こし「島原大変肥後迷惑」が発生
平成2年11月17日	198年ぶりに普賢岳の地獄跡及び九十九島火山口より噴火
平成3年3月29日	九十九島火山口、地獄跡、屏風岩の3火山口から同時噴火
平成3年5月15日	水無川で、初めて土石流が発生
平成3年5月20日	地獄跡火山口の中に溶岩ドーム出現
平成3年5月24日	溶岩ドームの一部が崩落し、初めて火砕流が発生
平成3年6月～	火山灰と土石流堆積物が広く山腹を覆い、水無川流域の荒廃加速
平成3年6月3日	水無川方向に大火砕流発生。死者・行方不明者43名
平成3年6月8日	水無川方向に大火砕流発生。
平成3年6月30日	湯江川、土黒川でも土石流発生し、土石流流下の範囲拡大
平成3年9月15日	水無川方向に大火砕流発生。大野木場小学校焼失。
平成5年5月～	溶岩ドームの成長方向が北東へ転じる
平成5年6月23～24日	中尾川方向に火砕流発生(死者1名)
平成6年2月6日	初めて湯江川方向に火砕流発生
平成6年9月～	火砕流の発生回数が激減
平成7年5月25日	火山防災予知連絡会より「マグマの供給と噴火活動はほぼ停止状態にある」との統一見解を発表
平成8年5月1日	最後の火砕流発生
平成8年6月3日	九州大学太田一也教授、「噴火活動の終息」を宣言

■火砕流・土石流による被災区域図



■大野木場監視所(大野木場砂防みらい館)の概要

雲仙・普賢岳の溶岩ドームは、噴火活動による火砕流の発生の心配はなくなったが、依然として規模の大きな地震が発生した場合、大規模な崩落を起こす危険性が残っている。今後、さらに上流域での砂防工事を実施していく必要があるが、溶岩ドームから工事箇所までの距離が近くなり、施工時の危険性がさらに高くなることから、よりいっそうの監視及び避難体制の強化を図り、工事従事者等の安全を確保するため、平成14年9月15日に大野木場監視所(大野木場砂防みらい館)をオープンした。この監視所では、監視カメラの映像、地震計、雨量計の観測データを集中的に管理しており、危険な場合には、サイレン・フラッシュライトで工事をしている人たちに避難を促し、砂防堰堤などの土砂を緊急に除去する必要がある生じた場合には、3階から無人化施工機械を操作することもできる。

緊急時の工事作業員の避難所としてだけでなく、噴火災害や砂防事業の重要性を広報する役割や近くに見える堰堤や展示物から、火山砂防を学ぶ学習の場としても利用されている。



無人化施工による除石作業

(出典：雲仙復興これまでのあゆみ（令和3年3月発行）、国土交通省九州地方整備局雲仙砂防管理センターHP)

九州旅客鉄道株式会社長崎支社（長崎県長崎市）
 [視察テーマ] ○西九州新幹線開業に伴う長崎駅周辺のまちづくりの取組
 ○施設視察

■長崎市新幹線開業アクションプラン ～進化する陸の玄関口～

長崎のまちは、新幹線開業に合わせた「長崎駅周辺整備事業」や「出島メッセ長崎」の開業、「長崎スタジアムシティプロジェクト」などの民間と連携したまちづくりにより、大きく進化している。西九州新幹線の開業は、移動時間の短縮効果や交流人口の拡大による地域活性化等が期待され、長崎市は、この新幹線開業効果を最大限に引き出すため、これまで継続的に取り組んできた、まちなかの魅力を向上する「まちぶらプロジェクト」や「交流の産業化」による長崎創生の取組等と連動し、行政、民間企業、市民が連携して取り組む「長崎市新幹線開業アクションプラン」を策定している。これからの時代に合わせて進化し、新たな賑わいをつくるため、西九州新幹線の開業効果を最大限に活かし、その効果を長崎駅周辺だけでなく周辺地域にも波及させる取組を進めている。

JR九州においては、長崎駅周辺整備事業などのまちづくりと連携し、本年3月には、長崎駅高架下に、物販・飲食店などが集った「長崎街道かもめ市場」をオープン。また、イベント広場などを備えた駅ビルの2023年秋の開業を目指しており、賑わいと交流の拠点づくりを進めている。

■長崎駅周辺再整備

「新幹線・在来線双方が乗り入れる日本唯一の頭端駅」、「世界にも類を見ない海に開かれた駅」という特徴を活かした駅舎を整備し、駅前広場はこれまでの高架広場の約3倍の広さになる予定。現在はバス・タクシー乗り場を暫定供用中。



(出典：長崎市新幹線アクションプラン)

福岡市議会（福岡県福岡市）

〔視察テーマ〕

- 博多港の現状と国際競争力強化に向けた取組について
- カーボンニュートラルポート（CNP）形成に向けた取組について
- 施設視察

■博多港の現状

1899年に博多港は開港指定され、国際貿易港としてスタートし、1951年に重要港湾に指定され、近代港湾に向けた整備が本格化していった。1990年には特定重要港湾に昇格し、1993年に博多港国際ターミナル、2015年に中央ふ頭クルーズセンターを供用開始するなど、物流、人流ともに世界を結ぶ拠点港として躍進している。2008年には国際拠点港湾となり、開港後100年以上を経た今日も、博多港はアジア・世界をつなぐ国際港として、ますます発展している。

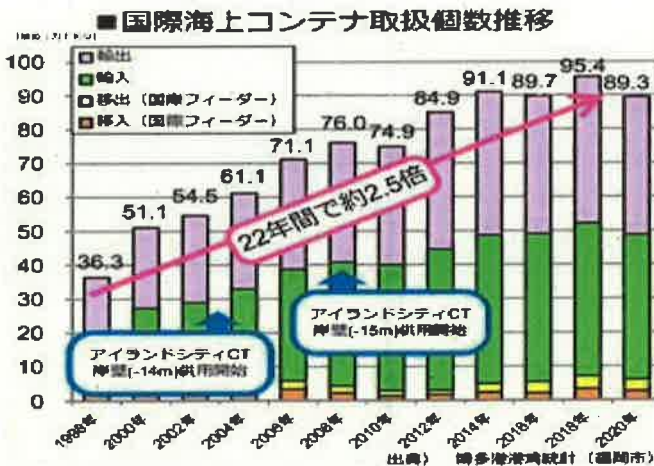
■博多港における国際競争力強化の取組

アイランドシティ地区に国際海上コンテナを整備したことにより、同地区において物流関連企業の進出が進むなど、国際海上コンテナターミナルを中心とした一大物流拠点が形成された。九州広範囲を背後地とするコンテナ貨物が集まっており、国際海上コンテナ取扱量は2019年に約96万TEUと過去最高を更新するなど増加傾向となっている。

※2020年は新型コロナウイルス等の影響により一時的に減少している。



博多港イメージ図



整備に伴う効果

■みなとづくりエリア地区の分譲状況

《国際海上コンテナターミナルの整備状況》
 アイランドシティ
 C1岸壁：-14m（2003年）
 C2岸壁（耐震）：-15m（2008年）
 C2延伸部：-15m（2021年）

《みなとづくりエリアの分譲状況》
 分譲済面積：70.1ha
 分譲進捗率：80.6%
 （2022年3月31日時点）

■カーボンニュートラルポート（CNP）の取組

我が国の港湾は、CO2排出量の約6割を占める発電、鉄鋼、化学工業等の多くが立地する臨海部産業の拠点、エネルギーの一大消費拠点である。現在はこれらの産業で利用される化石燃料等は港湾を利用して輸入されているが、今後は化石燃料に代わる脱炭素エネルギーに転換していくことが想定されている。水素・燃料アンモニア等の活用などによるCO2削減の余地が大きい港湾地域において、脱炭素化に向けた先導的な取組を集中的に行うことは、我が国の2050年カーボンニュートラルの実現に効果的・効率的であると考えられることから、国土交通省港湾局では、水素・燃料アンモニア等の大量・安定・安価な輸入・貯蔵等を可能とする受入環境の整備や、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化、集積する臨海部産業との連携等を通じてカーボンニュートラルポート（CNP）を形成し、我が国全体の脱炭素社会の実現に貢献することとしている。

福岡市では、「2040年度 温室効果ガス排出量実質ゼロ」を目指したチャレンジを進めているところであり、博多港においては、港湾の脱炭素化を促進するカーボンニュートラルポート（CNP）形成計画の策定に向け、「博多港カーボンニュートラルポート（CNP）形成推進協議会」を設置し、具体的な取組などについて検討を進めている。

（出典：国土交通省、博多港HP）

建設公安委員会 県外行政視察日程表

月日	発着時刻	発着地・視察先	備 考
10月25日 (火)	11:30 集合	【参集場所】 羽田空港内 第1ターミナル 2階 2番時計台	※昼食は用意しておりませんので、 出発までの間に各自でお取りください。
	12:30 (発)	羽田空港 (発) 【JAL609】	
	14:25 (着)	長崎空港 (着)	
	14:50 (発)	長崎空港	
10月26日 (水)	15:45 (着)	●九州商船株式会社 ○離島航路の現状と課題について ○施設視察	〒850-0035 長崎県長崎市元船町16番12号 TEL: 095-801-1815 FAX: 095-824-3128
	16:45 (発)		
	17:15 (着)	【宿泊】 長崎バスターミナルホテル 会食: 四海楼	〒850-0842 長崎県長崎市新地町1-14 TEL: 095-821-4111
	8:15 (発)	【宿泊】	
	10:00 (着)	●国土交通省九州地方整備局雲仙砂防管理センター ○雲仙普賢岳噴火災害と火山砂防事業の取組について ○無人化施工現場視察	《会場: 大野木場砂防みらい館》 〒859-1505 長崎県南島原市深江町戊2100-1 TEL: 0957-72-2499 FAX: 0957-72-5633
	11:15 (発)		
	11:30 (着) 12:20 (発)	【昼食】 ホテルシーサイド島原	〒855-0862 長崎県島原市新湊1丁目38番地1 TEL: 0957-64-2000 FAX: 0957-64-1919
14:00 (着)	●九州旅客鉄道株式会社長崎支社 ○西九州新幹線開業に伴う長崎駅周辺のまちづくりの取組について ○施設視察	〒850-0058 長崎県長崎市尾上町8番6号 TEL: 095-827-4050	
15:00 (発)			
15:42 (発)	長崎駅		
16:13 (着)	武雄温泉駅		
16:16 (発)	武雄温泉駅		
17:14 (着)	博多駅		
17:30 (着)	【宿泊】 八百治博多ホテル 会食: 河太郎	〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前4-9-2 TEL: 092-483-5111 FAX: 092-483-5123	
10月27日 (木)	8:30 (発)	【宿泊】	
	9:00 (着)	●福岡市議会 (福岡市港湾空港局) ○博多港の現状と国際競争力強化に向けた取組について ○カーボンニュートラルポート(CNP)形成に向けた取組について ○施設視察	《会場: 博多港センタービル》 〒812-0031 福岡市博多区沖浜町12-1 説明後、博多ふ頭(株)本社ビル屋上へ移動します。
	10:15 (発)		
	10:40 (着) 12:00 (発) 13:40 (着)	福岡空港 福岡空港 (発) 【JAL312】 羽田空港 (着)	※昼食は用意しておりませんので、 出発までの間に各自でお取りください。 解 散

随員職員携帯 (小出・星) : 070-4449-3047

※当日からつながる番号となりますので、10/24までは議会事務局 (025-280-5526) へご連絡願います。